

荷主と運送事業者の協力による取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン(加工食品物流編)について

1. ガイドライン策定の経緯

- トラック運送業においては、ドライバー不足が大きな課題となっており、トラック運送事業者、発着荷主等の関係者が連携して、取引慣行上の課題も含めてサプライチェーン全体で解決を図っていくことが必要。
- 一方、個々の輸送品目ごとに抱える課題や特性に違いがあるところであり、輸送品目別に検討を行うことが効果的。
- このため、荷待ち件数が特に多い加工食品分野について、課題の抽出を図るとともに、トラック運送事業者及び発着荷主が参画して長時間労働の改善を図るため懇談会を設置。懇談会の検討の成果としてガイドラインを策定。

2. ガイドラインの構成

【まえがき】

- ガイドライン策定の経緯とトラック運送事業の現状
 - (1) 今後のトラック運送事業の見通し、(2) トラック運送事業を取り巻く制度面の変遷、(3) トラック運送事業の健全な発展に向けて
- 社会へのメッセージ (危機的な状況を乗り越えるために)

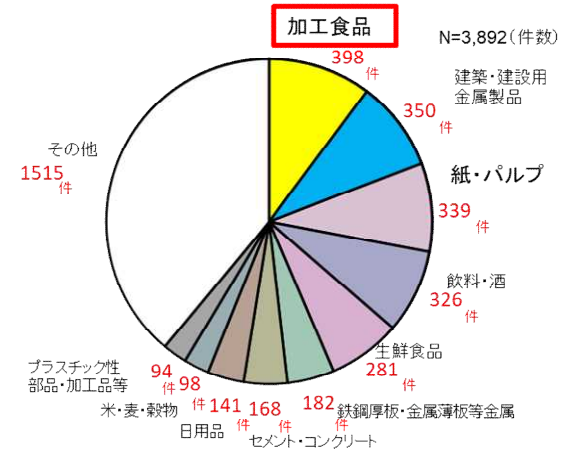
【本編】

- 加工食品分野における現状・課題、現状のボトルネックの把握方法
- 取引環境と長時間労働の改善に向けた具体的な取組み事例等

【あしがき】

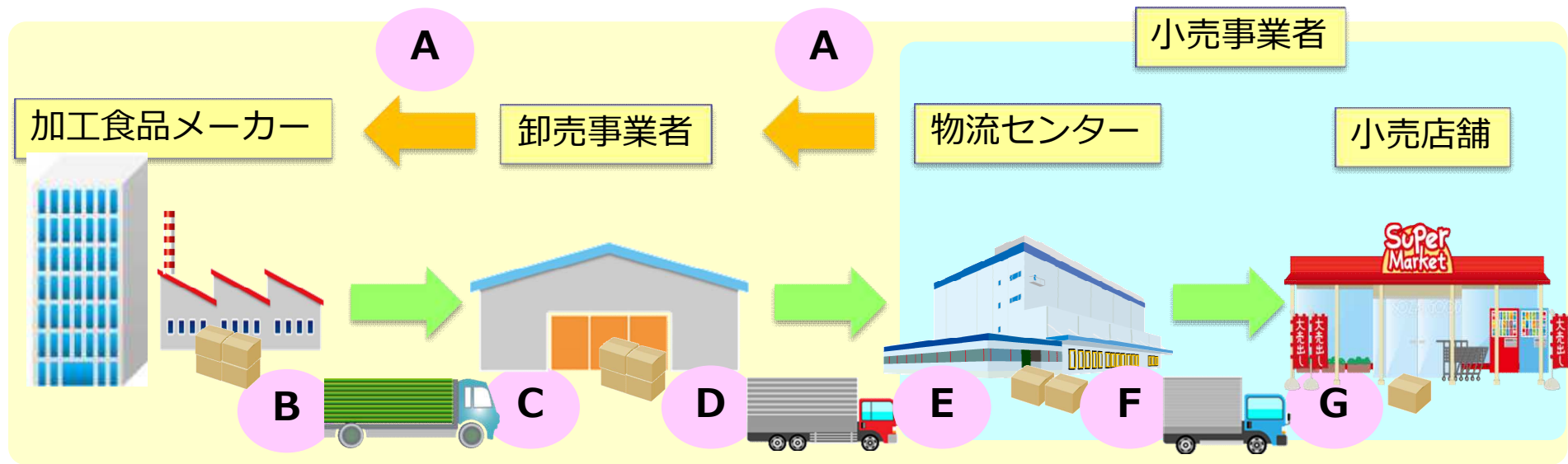
- 加工食品分野における今後の取組みの方向性

30分以上の荷待ち時間が生じた件数(輸送品目別)



加工食品物流編

加工食品物流の課題の発生個所



発生個所 A・B・D

【小売・卸発注時、メーカー・卸出荷時】

- ・発注から短期間での納品、特定の日に物量が集中
⇒ **【受発注条件の見直し】**

発生個所 C・E・G

【卸・物流センター・小売店舗荷卸し時】

- ・荷卸し場所の処理能力や車両集中に起因する待ち時間の発生
⇒ **【荷待ち時間の削減】**

発生個所 B・C・D・E

【メーカー・卸荷積み時、卸・物流センター荷卸し時】

- ・荷積み・荷卸し時に長時間の荷役作業が発生
⇒ **【荷役時間の削減】**

発生個所 C・E・G

【卸・物流センター・小売店舗荷卸し時】

- ・業界の慣習や目視等による長時間の検品作業
⇒ **【検品時間の削減】**

加工食品物流における取引環境と長時間労働の改善に向けた対応

【加工食品物流における課題の特徴】

- 加工食品物流においては、業界慣習である1 / 3ルールや年月日表示された賞味期限情報、統一されていない伝票情報の手入力等により、検品に要する時間が長くなり、トラックドライバーの労働時間が長くなる要因となっている。
- また、即席麺やお菓子等、パレット化されずバラ積みとなっている商品も多く、パレット化されていてもパレットのサイズや段ボールサイズが様々であり、手積み・手卸し等で長時間の荷役作業が発生し、トラックドライバーの労働時間が長くなる要因となっている。

主な対応策

◆ 納品期限の緩和や賞味期限の年月表示化を推進

→ **大手スーパー、コンビニを中心に見直しが進んでいる**状況。更なる取組企業や品目の拡大を図る。

◆ QRコードの活用による検品時間の削減

→ **紙伝票を電子化してQRコードからクラウド上の電子伝票を読み込む形式**にするとともに、**荷の外装にもQRコードを貼り付け**、着側での検品時間を削減する実証実験を実施。

(800箱の運送で**約40分の検品時間を削減**するとともに、紙伝票の取扱いに係る**年間約1,500万円のコスト削減効果**)



◆ パレットサイズや外装サイズの統一、外装表示の標準化

→ 加工食品物流において主流となっている**T11型(1,100mm×1,100mm)及びT12型(1,200mm×1,000mm)のパレットの推奨**や、これらのパレットに積載することを念頭に置いた**外装サイズの見直し、外装表示の内容や位置の統一**等について、**加工食品分野における物流標準化アクションプラン**

(https://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000500.html)を策定。

今後の取組の方向性

- 事前出荷情報の提供と伝票情報の電子化等を組み合わせるなど、**検品レスの実現に向けた取組を推進**。
- 物流標準化アクションプランに沿った外装サイズや表示等の**標準化を推進し、荷役時間の削減を図る**。